

# 令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	2	室戸	高等学校	課程	定
------	---	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る。 県東部の定時制高校として、様々なニーズのある生徒を支援し、きめ細かな学習活動や探究活動、キャリア教育の充実を図ることで社会性を育み、地域社会に貢献できる人材を育成する。
	スクールのポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○定時制の時間帯で学習したい生徒を募集します。 ○小・中学校の学習内容から学びなおしたいと考えている生徒を募集します。 ○授業にまじめに取り組み、基礎学力を身につける意欲を持つ生徒を募集します。 ○高等学校を卒業するという強い意志を持った生徒を募集します。 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○自信を育て、自分は認められているという認識を高めます。 ○少人数指導とICT活用により一人ひとりに応じた学習を行い、基礎学力を定着させます。 ○個性と自主性を尊重し、進路希望を実現する力を育成します。 ○望ましい人間関係がつけられる心豊かな人間力を育成します。 ○社会人として必要なコミュニケーション能力を育成します。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○三修制や高卒認定試験などの活用により、3年間で卒業が可能です。 ○少人数で学力やニーズに応じたきめ細かな学習指導を行います。 ○ICTを活用して、自ら学び(情報収集)、考え(思考)、広げる(発表等)学習を行います。 ○地元の主要産業や企業、伝統文化や特色等「ふるさと」を知る学習を行います。 ○企業人を招いたり、就労を促したりするキャリア教育を重視します。 ○進路実現に向けた基礎学力の定着を図ります。 ○学校行事を通じて、連帯感や達成感、充実感の向上を図ります。

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	授業ではICT機器活用の取り組みが十分になされている。今後も継続して取り組んでほしい。地域の住民など、少しでも多くの外部の方が学び直しのために通いたいと思う定時制になってほしい。室戸高校定時制の末永い存続を願っている。
【社会性の育成】 評価 【 B 】	目標数値は未達成ではあるものの、在籍する生徒がこれまで不登校だったり、他者とのコミュニケーションが苦手だったりなど、様々な背景を持っていることを考えると、十分な結果だと考える。自己肯定感を高める取り組みをさらに取り入れてほしい。若者と地域の高齢者など、異年齢間交流のある授業が大切だと考える。
【チーム学校】 評価 【 A 】	学校の振興と働き方改革との両立ができています。チーム学校の目標数値がほぼ達成されている。職員が働きやすい環境づくりに努めることが、結果として生徒の学力向上や社会性の育成に寄与すると考える。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	【現状】中学校時に授業を受けていない生徒が多く、このことに起因して基礎学力の習得に課題がある。 ①授業でのICT機器活用率100% ②ICT活用による自ら学び(情報収集)・考え(思考)・広げる(発表等)活動、年間7回以上	○持ち帰りも含め「1人1台端末」を活用する授業形態を実施し、一人一人のニーズや理解度に応じたきめ細かな指導を実現 ○自信を育てるため、ICTを活用した発表活動を実施 ○「学ぶ」「広げる」「振り返る」生徒の学びを支えるためのアプリ活用術等の学習会(ICT校内研修)を毎学期実施	B ①Google ClassroomをはじめとするGoogle Workspace for Education、Life is Techなどの教育用アプリを授業で活用している。 ②生徒生活体験発表会に向けて、タブレットで原稿作成作業をさせ、その原稿をもとに校内発表会を行った。 ・7月18日・9月4日に教員向けのIT活用情報交換会を実施した。	・ほぼ全ての場面でタブレットを活用している。生徒の特性に合わせた個別最適化・スモールステップの学習指導に今後もIT端末を活用していく。 ・定期テスト時期を利用して、毎学期教員向けIT活用情報交換会を積極的に実施している。	B ①ほぼ全ての授業でタブレットなどのICT機器を使用している。 ②生活体験発表会に向けた作業や、総合的な探究の時間では、タブレットを利用して自分の意見をまとめプレゼンテーションを実施した。(年間7回以上実施)	生成AIツールが近年急速に進歩している。教育に生かすために教員側も最新情報に触れ、知識のブラッシュアップに努めることが必要だと感じる。
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	【現状】他者とのコミュニケーション経験が少なく、自己の将来像を明確にできていない生徒が多い。 ①体系的なキャリア教育活動の通年実施 ②アンケート項目「将来の夢や目標を持っている」肯定的回答割合70%以上(昨年度:55%)	○高知県就職支援相談センター(ジョブカフェうち)の学校出前講座や外部人材を活用した進路講演等を年間6回以上実施 ○インターンシップの実施 ○「高知県定通学生生活体験発表会」の校内発表会を実施(全教員で作文指導し、全員に発表させる)	B ①5月にジョブカフェ講演、6月に礼法指導と企業学校訪問、7月に外部人材講話、9月に高知県風土や文化を学ぶ校外学習を実施。インターンシップ実参加者は4名 ・生活体験発表会に向けてほとんどの生徒が作文を完成させた。 ②該当アンケート(第1回)の肯定的回答42.8%	・10月のハローワーク講演、11月の「ものメッセ」見学などを通じて生徒の視野をさらに広げていく。 ・10月10日の「高知県生活体験発表大会」をオンライン視聴し、他校生徒の思いに触れさせる。	C ①体系的なキャリア教育を実施することができた。 ②高知県オリジナルアンケート(第2回)では、「将来の夢や目標」についての肯定的な割合は45%であった。しかし「将来の可能性を広げるために勉強をがんばっている」と答えた割合は91%であり、大きなギャップがある。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○校外学習を年2回以上実施し、生徒の進路意識を高める。 ○室戸市主要産業体験学習を実施し、ふるさとに根差す産業への理解を深める。	B ①4月の「仲間づくりデイキャンプ」で地元について知った。今年度は高知県教育委員会の配慮でハイスクールプランでのバス予算割り当てが例年より多く、6月の企業学校訪問、9月には高知県の風土や文化を学ぶ校外学習を行えた。 ①該当アンケート(第1回)の肯定的回答57.2%	・11月12日には室戸市の事業所を見学する「室戸市主要産業体験学習」を行う。現場を見て体験することは生徒にとって非常に有用と考えるので、積極的な参加を促したい。	B ①全校で室戸市の事業所(室戸ドルフィンセンター・椎名大敷組合・ジオパークセンター)を見学し、生徒が自己の進路を考える契機とできた。「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と回答した生徒は64%であった。	各種事業の精選を行い、教員間で方向性を確認していく。生徒が地域に興味を持つ事業を企画し、教育効果をより高める。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	【現状】基礎学力の習得に課題があり、学びを課題発見・解決に結び付けていくことが難しい。 ①言語能力や情報活用能力を向上させる。 ②総合的な探究の時間では、昨年度の総合的な探究の時間で発表した生徒提案を1項目以上、生徒の協働により実現させる。	○各教科で基礎復習の時間を設ける ○生徒の教育活動を支える教員対象ICT校内研修を毎学期実施 ○総合的な探究の時間は、定時制の全生徒で課題解決に取り組む。他者との協働により、自己の学びを深める。	B ①4月当初の職員会で校務・授業におけるIT機器活用について説明し、7月18日・9月4日には教員向けのIT活用情報交換会を実施した。 ②生徒が企画した「生徒・教員親睦会」を昨年度に引き続き7月16日に実施した。	・IT技術に習熟する教員を中心とし、定時制の全教職員に情報技術活用方法の理解を浸透させていく。 ・生徒の意見を学校運営に取り入れられる環境づくりを心がける。	B ①校内生活体験発表会や総合的な探究、各教科での発表活動など意見をまとめ発表する取組を通年実施。教員向けICT研修を学期ごとに設定し実施した。 ②生徒意見を取り入れた生徒教員親睦会を実施。

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化・特色化 ○定時制の魅力発信 ○地域の教育ニーズを満たす ○校外学習の充実	○HP、インスタグラムによる積極的な情報発信 ○聴講生パソコン講座(昨年度再開) ○室戸市主要産業体験学習や、その他校外での見学・学習活動を年4回以上実施	B ①生徒のプライバシーに留意しながら、行事について情報発信を行った。 ②夏季開放講座を実施。聴講生パソコン講座も前年同様に開講。仲間づくりの予算やハイスクールプランを活用して校外学習を実施(現在3回)	・積極的な情報発信を続ける。 ・教員数が減る中で、実施可能な持続的な取り組みを考えていく。 ・「ものメッセ」の機会も活用して生徒の体験機会を確保する。	B ①外部へ様々な情報発信ができた。 ②聴講生は9名が申込。現在受講中の6名の満足度は100%。夏季開放講座は4講座開講、3講座実施で17名参加、満足度はほぼ100%。 ③校外学習は企業学校訪問等も含めると4回実施。	夏季開放講座の規模が例年と比べて小さくなったが、時間の余裕が生まれ、準備できた良い面もあった。次年度以降も実施し、地域とつながりを持つことで地域に信頼される学校を目指す。	
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	【現状】管理職による不祥事防止研修を学期に1回以上実施し、職員の意識向上に努めている ○校内研修の実施回数 1回/学期 ○不祥事防止委員会の実施回数 1回/学期 ○働きやすい職場づくり ○不注意事案 0件	○関係法令や過去の通知文の定期的な周知 ○年度当初のハラスメント研修・相談窓口の周知 ○「職務上の義務」、「身分上の義務」の徹底 ○不祥事防止強化月間の設定 ○管理職によるこまめな声掛け	B ・職員会・連絡会の際、管理職が講師となって不祥事防止研修を行った。 ・定期的な校内巡回の際にカメラや不審物チェックも行うことになった。 ・外部に提出する書類についてダブルチェックを必ず行っている。	・年間を通じて研修を実施する。 ・風通しの良い職場づくりを心がけていく。 ・マニュアルの流れに沿った処理を怠らないよう声掛けしていく。	A 管理職による「不祥事防止研修」「飲酒不祥事防止研修」等の研修を定期的実施した。	年間を通じて研修を行うことで、職員全体が高い職業倫理を維持できる体制を作る。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○時間の意識(タイムマネジメント) ○業務の平準化 ○教育の質の向上を意識 ○教員のウェルビーイング向上	【現状】長時間勤務にあたる職員はいない ○時間外在校時間 ・45時間/月 を超える教員0名 ・360時間/年 を超える職員0名 ○全員による業務見直し ○ICT活用で抜かりない情報共有を実現	○管理職によるタイムマネジメントの啓発 ○分掌業務協働による効率化 ○長期休業中の学校閉庁日の設定 ○複雑な業務フロー等の見直し・改善 ○学期毎に業務のスクラップ&ビルド検討 ○グーグルクラスルームによる情報共有	B ・管理職による声かけを心掛けている。 ・長時間勤務にあたる教員は0名 ・次年度以降の人事異動や人員配置も想定し、各分掌の業務分担と情報共有を進めている。	・引き続き長時間勤務にならないように、また、精神面や健康面でも無理がおこらないよう職場での「声の掛け合い」を実践する。 ・一人ひとりの業務配分について、常に見直ししていく。	A 長時間勤務にあたる教員は年間を通じて一人もいなかった。業務に余裕のある時には休暇を取りやすい雰囲気づくりに努めた。	人事異動によって特定個人に業務負担が増加することを防止するため、業務分担やノウハウの蓄積を進めていく。